

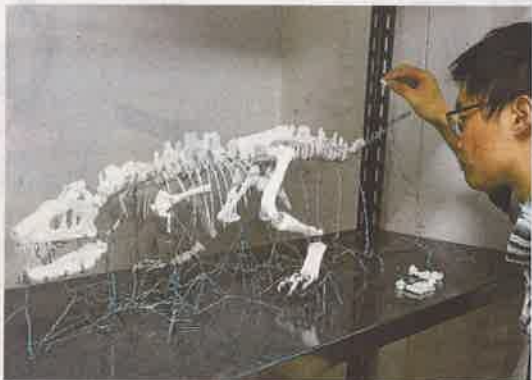
特集

タルボサウルスの骨格を並べて恐竜学の講義中。この骨を組み上げます



# 骨を間近に見せる展示へ

10分の1模型を前に「天井の低い部屋でも組み立てられるようにするには尾の高さはどうしようかなあ?」と骨組み担当の学生



観客の話を聞くと、「骨格のどこを見ていいかわからない」とのこと。そこで学生は一生懸命考えて、骨のある部分に着目してもらえようという説明板を作りました。

7割の人が5秒以下。何のことでしよう? はい、これは恐竜特別展で、観客が目玉展示の「ティラノサウルス」の骨格をながめた時間です。7割以上の人が5秒以下しか見ないのです。あんなに大きくて迫力のある骨格なのに…。これには調査した卒論の学生も私もびっくりしました。

すると骨をよく見る人の割合は3倍に増えたのです。では、恐竜の骨格をじっくり見てもらえるような展示を最初から作れないか? 全身骨格から骨を外して、間近に観察できるように展示はできないか? 頭、背骨、脚、尾、というふうにバラバラに展示して、時間になったら真ん中に移動して合体させ、全身骨格になるような展示はできないか。そんな展示は私が担当の「恐竜学」の授業でも大変面白いことになるだろうと思いました。

さて、現在、3人の卒論生が協力してその展示を作っています。恐竜はタルボサウルス。アジアのティラノサウルスともよばれる大型肉食恐竜です。完成は2月の中旬頃。一般公開は3月2日(土)。

楽しみにしてくださいね。



## 恐竜調査隊が行く

岡山理科大学教授・石垣忍

卒論で恐竜骨格組み上げ

まめ豆 ち しき 知

レプリカと実物 博物館などで組み上げられている恐竜の骨格の多くはレプリカです。実物はとても重く壊れやすいことが、レプリカで展示する主な理由です。現在の技術は高く、実物とほとんど同じレプリカが作られ、展示されています。(写真はタルボサウルス頭部のレプリカ)